

【本日の課題】

1) 支点の反力：反力算定

⇒ 『解法 04』 支点の反力

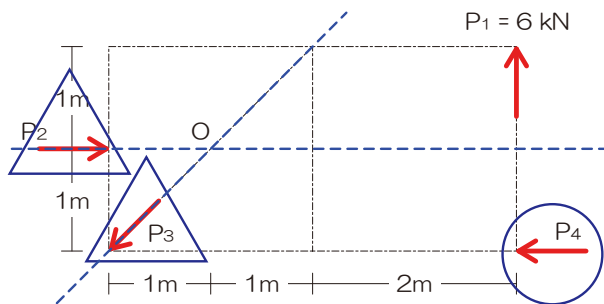
2) 応力算定：梁の応力・ラーメンの応力

⇒ 『解法 05』 梁の応力、『解法 06』 ラーメンの応力

《前回の講義の復習》

『解法 03』 未知力算定（力のつり合い）

図のような4つの力 $P_1 \sim P_4$ がつり合っているとき、 P_4 の値を求めよ。【H20 改】



『過去問解法手順 03』 未知力算定（力のつり合い）

- 1) 求めたい未知力（ターゲット）を○チェック
- 2) ターゲット以外の未知力を△チェック
- 3) ターゲット以外の未知力の作用線を図示
- 4) 上記作用線が交差するなら⇒交点のモーメントに着目
 $(M_O = 0)$ 、平行なら⇒直行する軸のつり合いに着目
 $(\sum Y = 0)$ もしくは $(\sum X = 0)$

ターゲット以外の未知 2 力の交点 O に着目

$$M_O = +P_4 \times 1 - 6 \times 3 = 0$$

$$P_4 = 18[kN]$$

解答： $P_4 = 18 \text{ kN}$

1-2 静定梁の反力

1-2-1 荷重

➤ 荷重の種類：既に解説は終わっていますがリストにしてみます

1) 集中荷重：ベクトル（矢印）1 本で示される

2) 分布荷重：一定の面に広がりつつかかる荷重

※ 作用線が重要でしたね

※ 集中荷重に変換して計算



3) モーメント荷重：回転の荷重

4) 斜めの荷重：文字通り斜め…

※ すべての点に等しいモーメントの影響を与えます

※ 縦・横に分解して計算しましょう



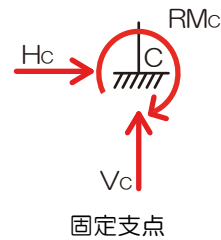
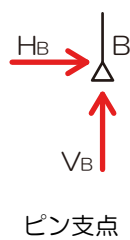
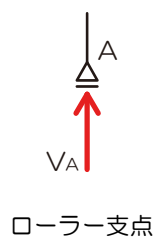
1-2-2 支点の種類と反力数

支点種類	移動可能な方向			生じる可能性のある反力		
	鉛直	水平	回転	鉛直	水平	回転
ローラー支点 	×	○	○	○	×	×
ピン支点 	×	×	○	○	○	×
固定支点 	×	×	×	○	○	○

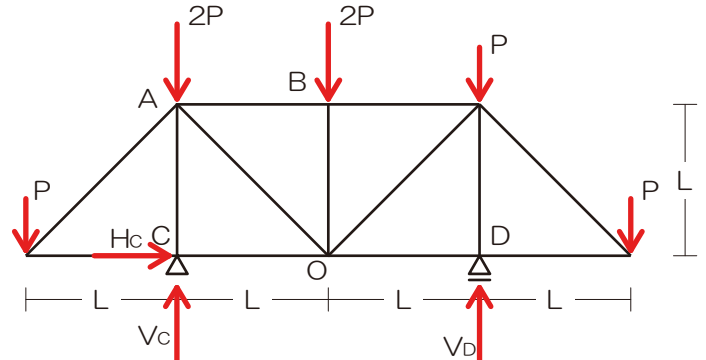
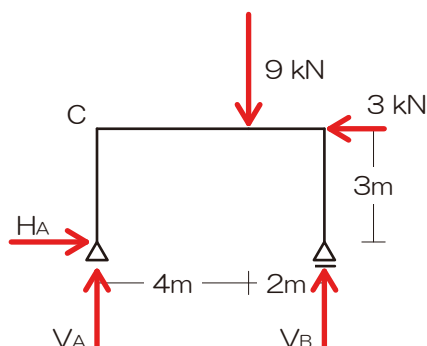
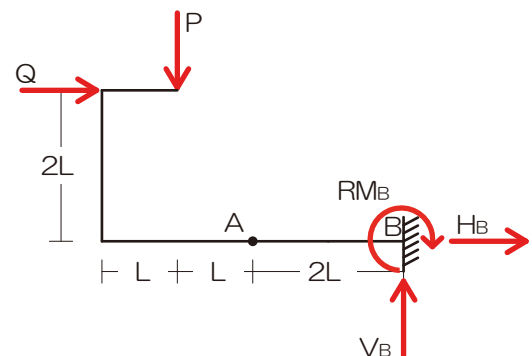
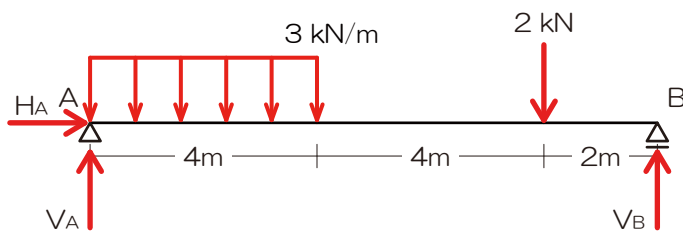
※動けない方向に反力が生じる

★基礎力養成 06★ 支点反力の図示

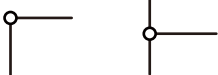
- 支点を見つけたら生じる可能性のある反力を図示（もう問題を読む前にでも！）
- 鉛直方向は「V（上方をプラス）」、水平方向は「H（右をプラス）」、回転（モーメント）を「M（時計回りがプラス）」で表記するのが一般的



★Q 06★ 各支点の反力を図示してみましょう



1-2-3 節点の種類

ピン接合（滑節点）	剛接合（剛節点）	混合
※ 回転可能	※ 回転不可・固定	※ 両者が…
		

1-2-4 骨組みの安定と不安定

- 構造物の判別：「安定」or「不安定」、安定のものは「静定」or「不静定」に分類されます
- 安定・不安定：不安定な構造体は「わずかな力で倒壊」
- 静定・不静定：静定構造物は「力の釣合い式のみ」で反力を求めることができる、不静定は…反力の数が多いので釣合い式のみでは算定不可能…（変形の知識を用いて求めることができるものもあります、一級で出題）

構造物	安定	静定（釣合い式のみで反力算定可）
		不静定（変形等の条件を加味し反力算定）
	不安定（わずかな力で倒壊・変形）	

- 判別式で判定可能

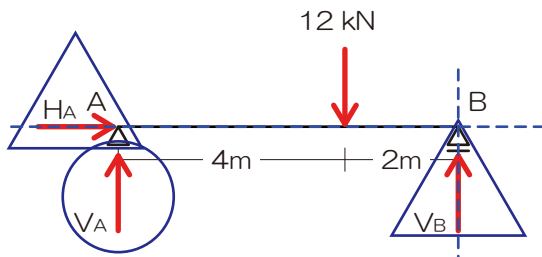
□ 判別式： $m = n + r + s - 2k$ $m > 0$ で不静定、 $m = 0$ で静定、 $m < 0$ で不安定
 n …反力数、 r …部材数、 s …剛接合部材数（※）、 k …支点・節点の総数

1-2-5 反力の求め方

★基礎力養成 07★ 支点反力の算定（梁）

- 「反力を図示」⇒「未知力算定（力のつり合い）」以上！

★Q 07-01★ 梁の支点反力を求めてみましょう（単純梁）



『過去問解法手順 04』 支点の反力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 求めたい未知力（ターゲット）を○チェック
- 3) ターゲット以外の未知力を△チェック
- 4) ターゲット以外の未知力の作用線を図示
- 5) 上記作用線が交差するなら⇒交点のモーメントに着目（ $M_O = 0$ ）、交差しないなら⇒直行する軸のつり合いに着目（ $\sum Y = 0$ もしくは $\sum X = 0$ ）
- 6) 残りの反力はそれ以外のつり合い式を用いて求める

反力を図示し、ターゲットを V_A とする

H_A と V_B の交点である B 点のモーメントに着目

$$M_B = +V_A \times 6 - 12 \times 2 = 0$$

$$6V_A = 24$$

$$V_A = 4[kN]$$

縦方向の力のつり合いより

$$\sum Y = +V_A + V_B - 12 = 0$$

$$4 + V_B - 12 = 0$$

$$V_B = 8[kN]$$

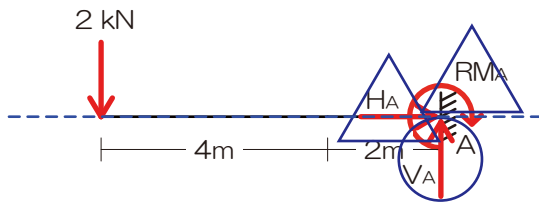
横方向の力のつり合いより

$$\sum X = +H_A = 0[kN]$$

解答： $V_A = 4 \text{ kN}$ 、 $H_A = 0 \text{ kN}$ 、 $V_B = 8 \text{ kN}$



★Q 07-01★ 梁の支点反力を求めてみましょう（片持ち梁）



『過去問解法手順 04』 支点の反力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 求めたい未知力（ターゲット）を○チェック
- 3) ターゲット以外の未知力を△チェック
- 4) ターゲット以外の未知力の作用線を図示
- 5) 上記作用線が交差するなら⇒交点のモーメントに着目（ $M_O = 0$ ）、平行なら⇒直行する軸のつり合いに着目（ $\sum Y = 0$ もしくは $\sum X = 0$ ）
- 6) 残りの反力はそれ以外のつり合い式を用いて求める

反力を図示し、ターゲットを V_A とする

H_A と M_A は交点しないので…

$$\begin{aligned}\sum Y &= +V_A - 2 = 0 \\ V_A &= 2[kN]\end{aligned}$$

横方向の力のつり合いより

$$\begin{aligned}\sum X &= H_A = 0 \\ H_A &= 0[kN]\end{aligned}$$

A 点のモーメントに着目

$$\begin{aligned}M_A &= -2 \times 6 + RM_A = 0 \\ RM_A &= 12[kNm]\end{aligned}$$

解答： $V_A = 2 \text{ kN}$ 、 $H_A = 0 \text{ kN}$ 、 $RM_A = 12 \text{ kNm}$

1-3 静定ラーメンの反力

1-3-1 ラーメンとは

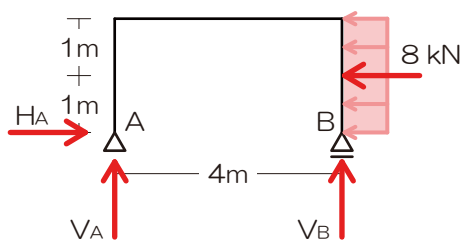
- 縦（柱）・横（梁）部材から構成され、その節点が剛接合しているもの

1-3-2 反力の求め方

★基礎力養成 07★ 支点反力の算定（ラーメン）

- 梁と全く同じ！以上！

★Q 07-03★ 梁の支点反力を求めてみましょう（単純ラーメン）



『過去問解法手順 04』 支点の反力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 求めたい未知力（ターゲット）を○チェック
- 3) ターゲット以外の未知力を△チェック
- 4) ターゲット以外の未知力の作用線を図示
- 5) 上記作用線が交差するなら⇒交点のモーメント、交差しないなら⇒直行する軸のつり合い
- 6) 残りの反力はそれ以外のつり合い式を用いて求める

反力を図示し、ターゲットを V_A とする

H_A と V_B の交点である B 点のモーメントに着目

$$\begin{aligned}M_B &= +V_A \times 4 - 8 \times 1 = 0 \\ 4V_A &= 8 \\ V_A &= 2[kN]\end{aligned}$$

縦方向の力のつり合いより

$$\begin{aligned}\sum Y &= +V_A + V_B = 0 \\ 2 + V_B &= 0 \\ V_B &= -2[kN]\end{aligned}$$

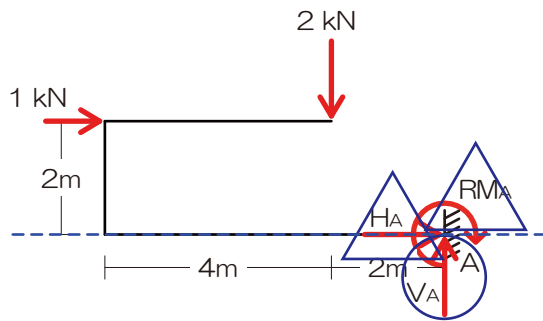
横方向の力のつり合いより

$$\begin{aligned}\sum X &= +H_A - 8 = 0 \\ H_A &= 8[kN]\end{aligned}$$

解答： $V_A = 2 \text{ kN}$ 、 $H_A = 8 \text{ kN}$ 、 $V_B = -2 \text{ kN}$



★Q 07-03★ 梁の支点反力を求めてみましょう（片持ちラーメン）



反力を図示し、ターゲットを V_A とする

H_A と M_A は交点しないので…

$$\sum Y = +V_A - 2 = 0$$

$$V_A = 2[kN]$$

横方向の力のつり合いより

$$\sum X = +1 + H_A = 0$$

$$H_A = -1[kN]$$

A 点のモーメントに着目

$$M_A = +1 \times 2 - 2 \times 2 + R_{M_A} = 0$$

$$R_{M_A} = 2[kNm]$$

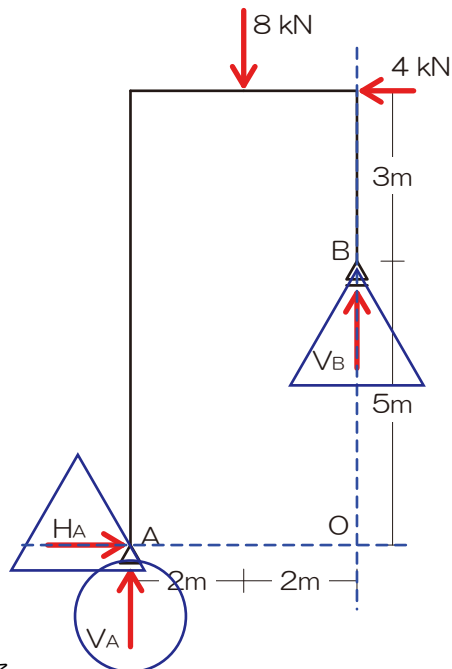
『過去問解法手順 04』 支点の反力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 求めたい未知力（ターゲット）を○チェック
- 3) ターゲット以外の未知力を△チェック
- 4) ターゲット以外の未知力の作用線を図示
- 5) 上記作用線が交差するなら⇒交点のモーメント、交差しないなら⇒直行する軸のつり合い
- 6) 残りの反力はそれ以外のつり合い式を用いて求める

解答： $V_A = 2 \text{ kN}$ 、 $H_A = -1 \text{ kN}$ 、 $R_{M_A} = 2 \text{ kNm}$

『解法 04』 支点の反力 『教科書 P12：□問題 1/□問題 2、P13：□問題 3、P14：□問題 4、P19：□問題 2、P20/□問題 3/□問題 4』【問題集 P294：□問題 03（一部）、P300：□問題 01（一部）/□問題 02、P304：□問題 07】

図のような外力を受ける静定ラーメンの支点 A・B に生じる鉛直反力を求めよ。ただし上方をプラスとする。【H18】



『過去問解法手順 04』 支点の反力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 求めたい未知力（ターゲット）を○チェック
- 3) ターゲット以外の未知力を△チェック
- 4) ターゲット以外の未知力の作用線を図示
- 5) 上記作用線が交差するなら⇒交点のモーメント、交差しないなら⇒直行する軸のつり合い
- 6) 残りの反力はそれ以外のつり合い式を用いて求める

V_A を求める

ターゲット以外の未知 2 力の交点 O に着目

$$M_O = +V_A \times 4 - 8 \times 2 - 4 \times 8 = 0$$

$$4V_A - 48 = 0$$

$$V_A = 12[kN]$$

V_B を求める

$$\sum Y = V_A + V_B - 8 = 0$$

$$12 + V_B - 8 = 0$$

$$V_B = -4[kN]$$

解答： $V_A = 12 \text{ kN}$ 、 $V_B = -4 \text{ kN}$



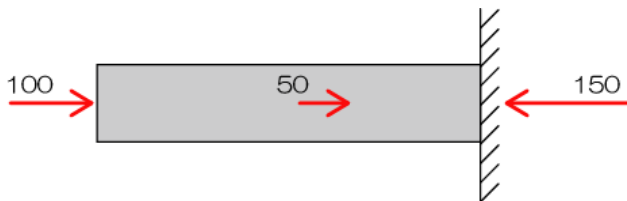
1-4 静定梁に生ずる力

➤ 生ずる力（＝応力）とは

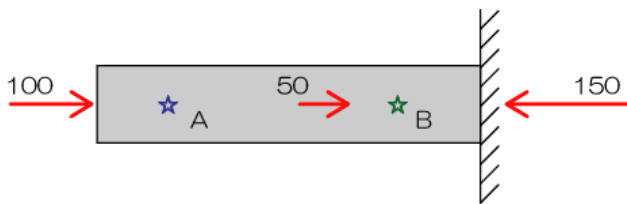
1) 100、50 の荷重を受けている片持ち梁があります



2) このままでは力のつり合いが取れていないので右端の支
点に反力 150 があるはず

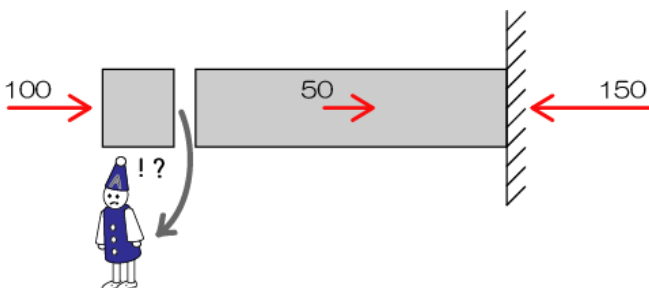


3) さて、ここで質問「以下の A 点と B 点ではどちらが“痛
い”ですか？」材の中に小人さん（☆印）がいることを
想定し、考えてみてください

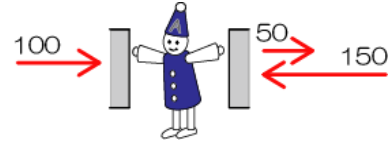


正解は皆さんのご想像の通り B 点なんですが、そのままでは講義が成立しないのでちゃんと解説してみます

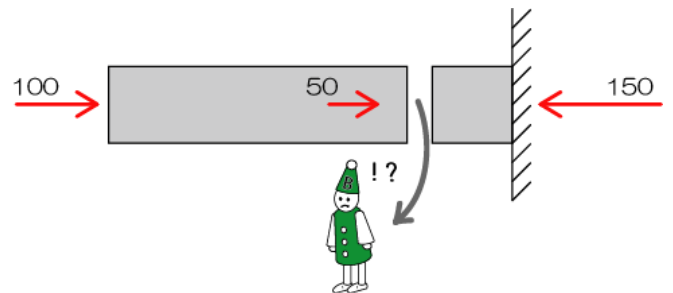
4) では、A 点に隠れている小人さんに登場願しましょう(A
点で構造体を切断します)



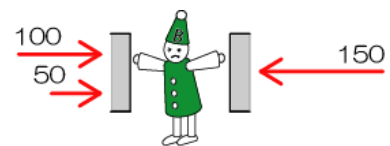
5) A 点の小人さんは左側から 100 で押され、右側からも
100 で押されています (50 で引張られ、150 で押
されているのでその合計) → 「両側から 100 ずつで
押されている」



6) 次は B 点の小人さん登場



7) B 点の小人さんは、左から 150 (100+50)、右側から
も 150 で押されています → 「両側から 150 ずつで
押されている」



8) 結果は…、B の小人さんのほうが 1.5 倍“痛そう”です
(小人さんの表情変えているんですが見えますか？笑)

「両側から 100 ずつで押されている」状態を軸方向力（圧縮）100、 $N = -100$ （圧縮がマイナスになります）と表記し、「両側から 150 ずつで押されている」状態を軸方向力（圧縮）150、 $N = -150$ と表記します

※ 応力（応力度も）は小人さんの気持ちになって考えま
しょう（応力を求める点で構造体を【切断】し、小人
さんに登場ねがいましょう）

※ 応力は左右（もしくは上下）で必ずつり合います（っ
てことは片側の力のみ【選択】し計算すれば OK）

※ 【応力】は【切断】⇒【選択】の手順を守れば計算可
能！



1-4-1 生ずる力（＝応力）の種類

■ 応力の影響を及ぼす力（荷重・反力）

➤ 応力の種類により影響を及ぼす力が異なります、影響を及ぼす力を見極めることが重要です！

■ 計算対象の選び方

➤ 応力の影響を与える力（荷重・反力）を見極め以下の留意点に配慮し、より簡便な計算対象を選択しましょう！

1）応力の影響を与える【反力が無い側】（反力算定の手間を省けます）

2）両計算対象ともに反力が含まれる場合は、【力（荷重・反力）の数が少ない側】

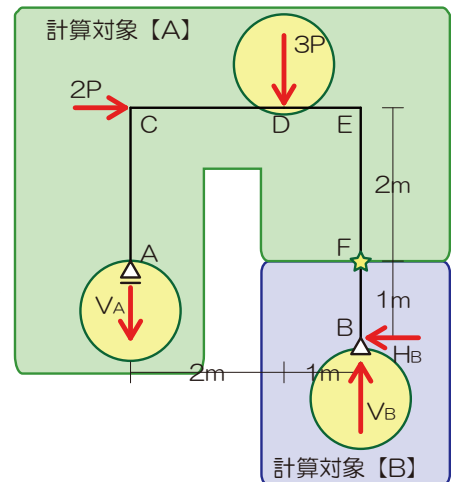
■ 軸方向力（N）、右図○が応力の影響を及ぼす力（荷重・反力）

➤ 構造部材が潰されたり（圧縮）、引っ張られたりされた時の応力

➤ 対象となる力は【部材に平行な力】

➤ 唯一符号がつく：圧縮をマイナス（－）、引張をプラス（＋）で表記

➤ 右例題における計算対象は？ ⇒ 絶対に「計算対象【B】」、両計算対象ともに応力の影響を及ぼす反力がありますが、【B】は応力の影響を及ぼす力の総数が1となり【A】よりも少ないので



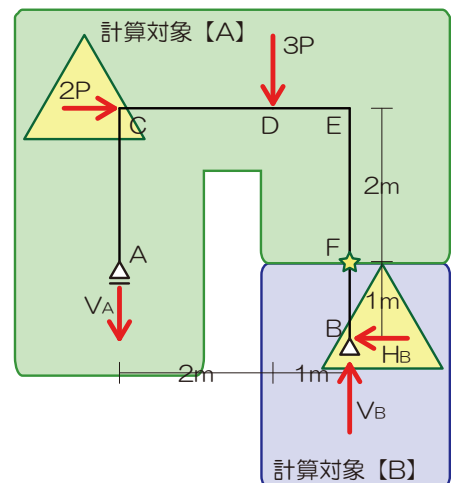
■ せん断力（Q）、右図△が応力の影響を及ぼす力（荷重・反力）

➤ 構造部材にはさみで切られるような力がかかった時の応力

➤ 対象となる力は【部材に鉛直な力】

➤ 符号はつかない（計算中は符号を考えるけど、最終的に絶対値表記）

➤ 右例題における計算対象は？ ⇒ 絶対に「計算対象【A】」、【A】には応力の影響を及ぼす反力が無いので、反力算定の手間を省けます



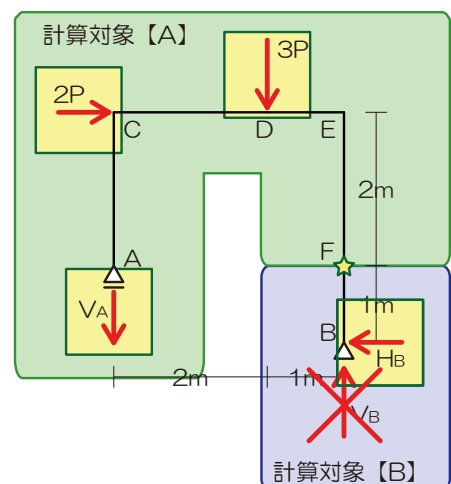
■ 曲げモーメント（M）、右図□が応力の影響を及ぼす力（荷重・反力）

➤ 構造部材に曲げられるような回転の力がかかったときの応力

➤ 対象となる力は応力を求める点に作用線が交差ししない力（距離が0となるのでモーメントが0となりますね）

➤ 符号はつかない（計算中は符号を考えるけど、最終的に絶対値表記）

➤ 右例題における計算対象は？ ⇒ 絶対に「計算対象【B】」、両計算対象ともに応力の影響を及ぼす反力がありますが、【B】は応力の影響を及ぼす力の総数が1となり【A】よりも少ないので（反力 H_B も暗算で求められそうですね）



1-4-2 N、Q、M 図の描き方

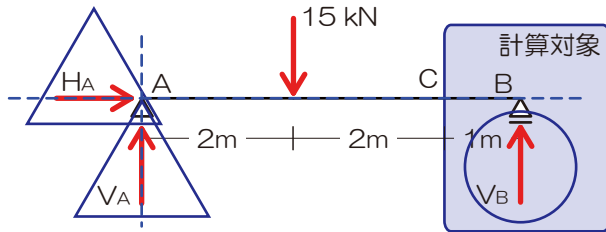
➤ 基礎力徹底養成講座では除外

1-4-3 力（応力）計算の手順

➤ もちろん、教科書の解法手順は正しいのですが…試験対策に特化した手順を紹介したいと思います

★基礎力養成 08-1★ 応力算定の基礎

★Q 08-1★ C 点の各応力を求めてみましょう



『過去問解法手順 05』 梁の応力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！
- 3) 計算対象を【選択】（計算対象とならなかった力は応力算定時には完全無視すること！）
- 4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力（通常は反力だね）を求める 図は 1) に戻るよ！
- 5) せん断力は軸に対して鉛直な全ての力が対象、軸方向力は軸に平行な力の全て、曲げモーメントは作用線が交差していない全ての力

C 点で【切断】⇒計算対象は右を【選択】

計算対象に未知力 V_B が入っているの…

V_B を求める（交点 A に着目）

$$M_A = +15 \times 2 - V_B \times 5 = 0$$

$$V_B = 6[kN]$$

C 点の軸方向力（材と並行な力）を求める

$$N_C = 0[kN]$$

C 点のせん断力（材と鉛直な力）を求める

$$Q_C = V_B$$

$$Q_C = 6[kN]$$

C 点の曲げモーメント（すべての力対象）を求める

$$M_C = -6 \times 1$$

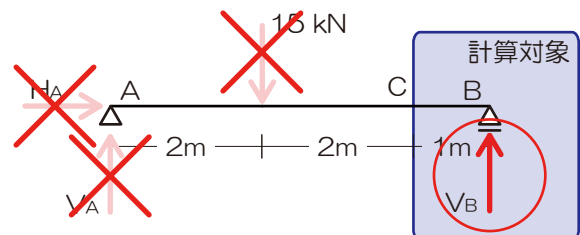
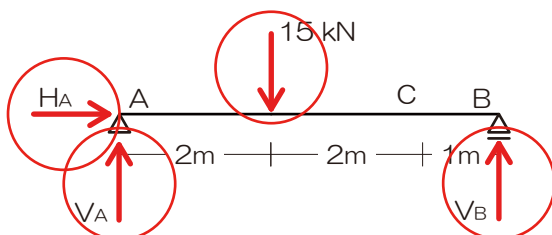
$$M_C = 6[kNm] \quad (\text{最後に絶対値標記})$$

解答： $N_C=0[kN]$ 、 $Q_C=9[kN]$ 、 $M_C=6[kNm]$

➤ 提案した解法の短所 ⇒ 応力計算と反力計算で対象となる力が変化するので留意

※反力算定：構造体にかかる【すべての力】が計算対象

※応力算定：切断後に選択された範囲にある力のみが計算対象



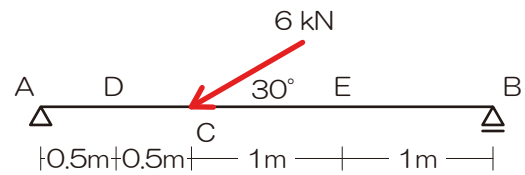
1-4-4 集中荷重が作用する時の力（応力）計算

★基礎力養成 08-2★ 応力算定の基礎（集中荷重が作用する場合）

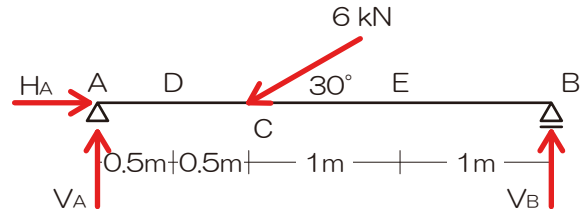
★Q 08-2★ 教科書 P23 の例題を「詳細に」解説してみます

説明しやすいように、AC 間に D 点、CB 間に E 点を追加させていただきます

まずは D 点の各応力を求めてみます



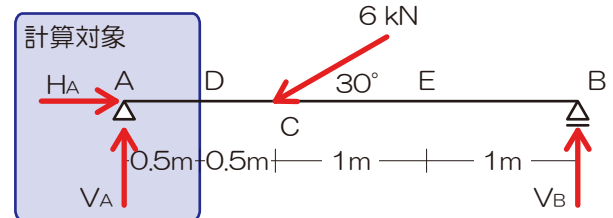
1) 生じる可能性のある反力を図示



2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！

3) 計算対象を【選択】（計算対象とならなかった力は応力算定時には完全無視すること！）

⇒ 計算対象は「左」とします



4) もし、未知力が入っていたら、ここでもうやく未知力（通常は反力だね）を求める 図は 1) に戻るよ！

V_A を求める ⇒ 交点 B のモーメントに着目

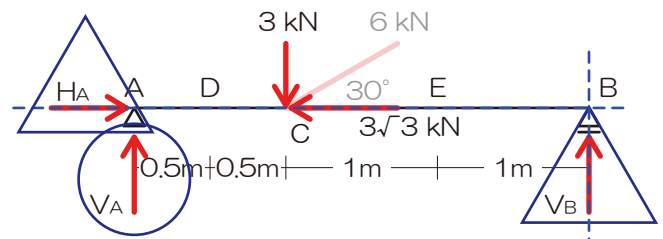
$$M_B = +V_A \times 3 - 3 \times 2 = 0$$

$$V_A = 2[kN]$$

H_A を求める ⇒ 直交する横方向の力のつり合い

$$\sum X = H_A - 3\sqrt{3} = 0$$

$$H_A = 3\sqrt{3}[kN]$$

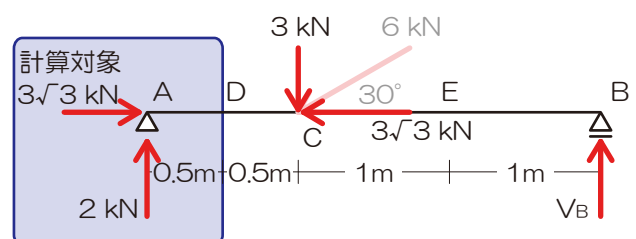
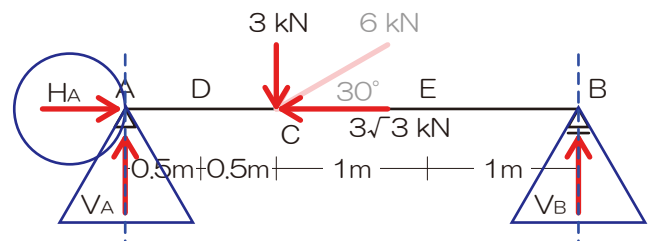


5) セン断力は軸に対して鉛直な全ての力が対象、軸方向力は軸に平行な力の全て、曲げモーメントはとにかく計算対象側全部の力

$$N_D = -3\sqrt{3}[kN]$$

$$Q_D = 2[kN]$$

$$M_D = +2 \times 0.5 = 1[kNm]$$



教科書では構造物「全体」の応力を求めているようです

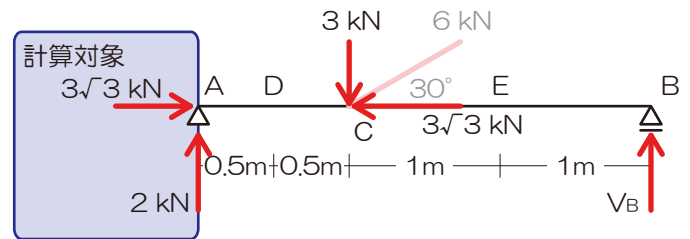
ので、他の点も順次求めていきましょう

A 点の各応力（※以下参照）

$$N_A = -3\sqrt{3}[kN]$$

$$Q_A = 2[kN]$$

$$M_A = +2 \times 0 = 0[kNm]$$

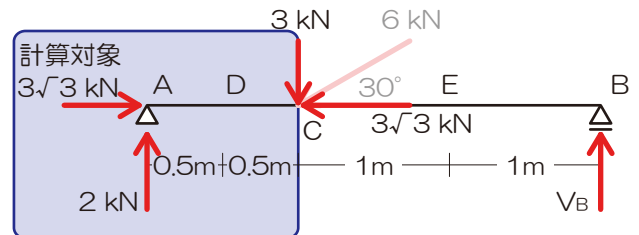


C 点の各応力（※以下参照）

$$N_C = -3\sqrt{3}[kN]$$

$$Q_C = 2[kN]$$

$$M_C = +2 \times 1 = 2[kNm]$$

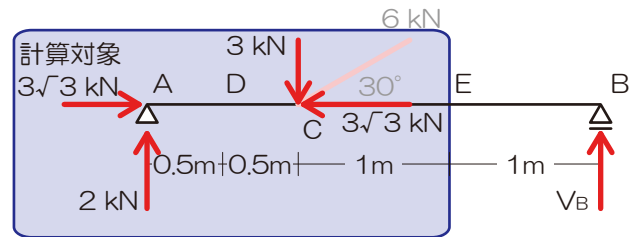


E 点の各応力

$$N_E = -3\sqrt{3} + 3\sqrt{3} = 0[kN]$$

$$Q_E = 2 - 3 = -1[kN]$$

$$M_E = +2 \times 2 - 3 \times 1 = 1[kNm]$$

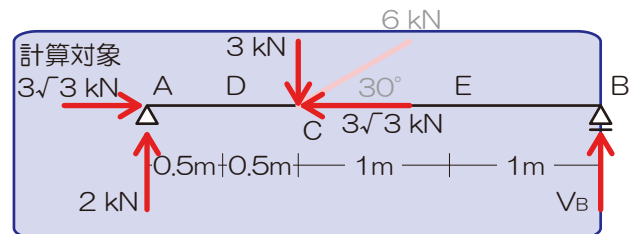


B 点の各応力（※以下参照）

$$N_B = -3\sqrt{3} + 3\sqrt{3} = 0[kN]$$

$$Q_B = 2 - 3 = -1[kN]$$

$$M_B = +2 \times 3 - 3 \times 2 = 0[kNm]$$



※ ただし、一点注意が必要です…各応力の対象となる力（荷重や反力などの集中荷重）がかかっている点のその応力は求めることができないのです

※ ってことは、厳密に言うと…A 点では「軸方向力」「せん断力」は解無し、となります

※ すべての応力の解を求めることができる点は D 点と E 点のみです（したがって、教科書では特定の点を指定せずに A～C 間、C～B 間のように定義し応力を求めているのです）

※ ゆえに、建築士試験では、対象となる集中荷重がかかっている点での「軸方向力」「せん断力」を求める問題は出題されません

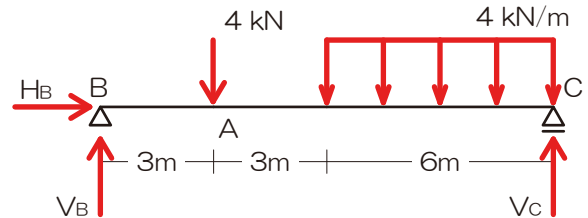
※ 実際の試験ではこんな面倒なことはしないよっ！ってのが本心ですが、この教科書は真面目過ぎます（悪いことではないですが…）



図のような外力を受ける単純梁の A 点における曲げモーメントを求めよ。【H18】

『過去問解法手順 05』 梁の応力

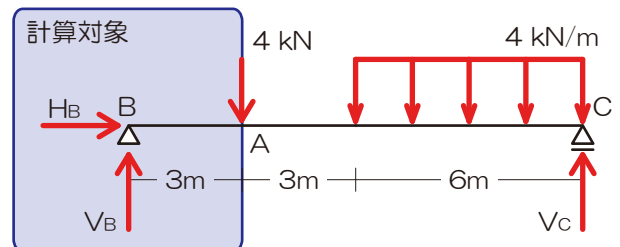
1) 生じる可能性のある反力を図示



2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！

3) 計算対象を【選択】（計算対象とならなかった力は
 応力算定時には完全無視すること！）

⇒ 今回は左側を選択してみます



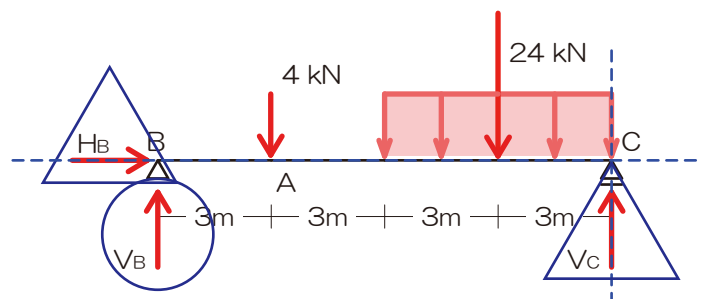
4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力（通常は反力だね）を求める 図は 1) に戻るよ！

V_A を求める（交点 C に着目）

$$\begin{aligned} M_C &= +V_B \times 12 - 4 \times 9 - 24 \times 3 = 0 \\ 12V_B &= -36 - 72 \\ V_B &= 9[kN] \end{aligned}$$

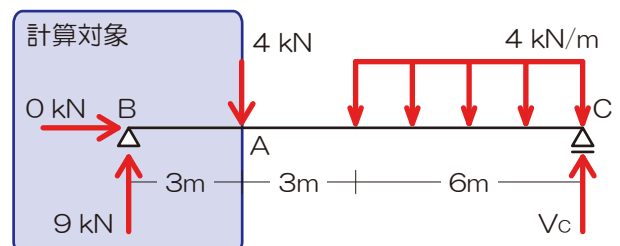
H_A を求める（横方向の力のつり合いに着目）

$$\sum X = H_A = 0[kN]$$



5) 曲げモーメントはとにかく計算対象側全部の力

$$M_A = +9 \times 3 = 27[kNm]$$



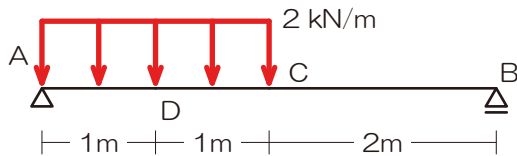
解答： $M_A = 27 \text{ kNm}$

1-4-5 等分布荷重が作用する場合

※ 「なんだよ…、教科書の問題は建築士の試験では出題されないパターンなのか…」なんてことは言わないで、以下のよう
に「応力を求めることができる点」を指定してやれば使えるのです、笑

★基礎力養成 08-3★ 応力算定の基礎（分布荷重の途中における各応力） ⇒ 解答 P53

★Q 08-3★ D 点の各応力を求めてみましょう



『過去問解法手順 05』梁の応力

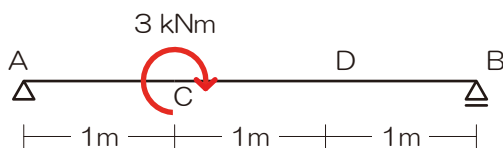
- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！
- 3) 計算対象を【選択】（計算対象とならなかった力は応力算定時には完全無視すること！）
- 4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力（通常は反力だね）を求める 図は 1) に戻るよ！
- 5) せん断力は軸に対して鉛直な全ての力が対象、軸方向力は軸に平行な力の全て、曲げモーメントは作用線が交差していない全ての力

解答： $N_D = 0 \text{ kN}$ 、 $Q_D = 1 \text{ kN}$ 、 $M_D = 2 \text{ kNm}$

1-4-6 モーメント荷重が作用する場合

★基礎力養成 08-4★ 応力算定の基礎（モーメント荷重がかかる場合の各応力） ⇒ 解答 P54

★Q 08-4★ D 点の各応力を求めてみましょう



『過去問解法手順 05』梁の応力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！
- 3) 計算対象を【選択】（計算対象とならなかった力は応力算定時には完全無視すること！）
- 4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力（通常は反力だね）を求める 図は 1) に戻るよ！
- 5) せん断力は軸に対して鉛直な全ての力が対象、軸方向力は軸に平行な力の全て、曲げモーメントは作用線が交差していない全ての力

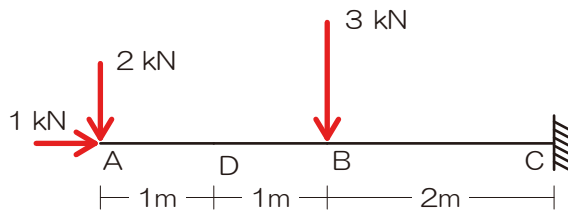
解答： $N_D = 0 \text{ kN}$ 、 $Q_D = 1 \text{ kN}$ 、 $M_D = 1 \text{ kNm}$



1-4-7 片持梁に生ずる力（応力）の計算

★基礎力養成 08-5★ 応力算定の基礎（片持梁における各応力） ⇒ 解答 P54

★Q 08-5★ D 点の各応力を求めてみましょう



『過去問解法手順 05』梁の応力

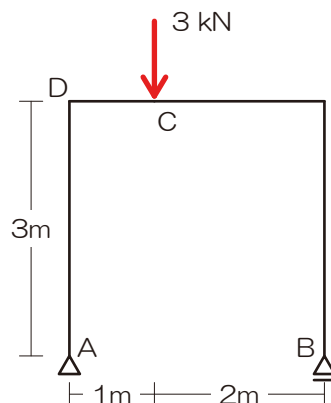
- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！
- 3) 計算対象を【選択】（計算対象とならなかった力は応力算定時には完全無視すること！）
- 4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力（通常は反力だね）を求める 図は 1) に戻るよ！
- 5) セン断力は軸に対して鉛直な全ての力が対象、軸方向力は軸に平行な力の全て、曲げモーメントは作用線が交差していない全ての力

解答： $N_{CD} = -1 \text{ kN}$ 、 $Q_D = 2 \text{ kN}$ 、 $M_D = 2 \text{ kNm}$

1-5 静定ラーメンに生ずる力

★基礎力養成 08-6★ 応力算定の基礎（単純梁系ラーメンにおける各応力） ⇒ 解答 P55

★Q 08-6★ 柱頂部である D 点の各応力を求めてみましょう



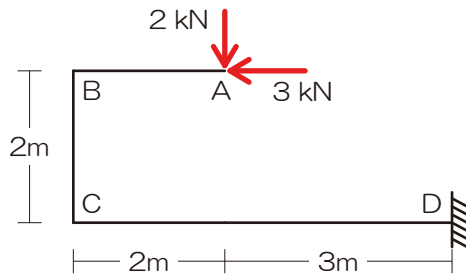
『過去問解法手順 05』梁の応力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！
- 3) 計算対象を【選択】（計算対象とならなかった力は応力算定時には完全無視すること！）
- 4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力（通常は反力だね）を求める 図は 1) に戻るよ！
- 5) セン断力は軸に対して鉛直な全ての力が対象、軸方向力は軸に平行な力の全て、曲げモーメントは作用線が交差していない全ての力

解答： $N_{CD} = -2 \text{ kN}$ 、 $Q_D = 0 \text{ kN}$ 、 $M_D = 0 \text{ kNm}$



★Q 08-7★ C 点の曲げモーメントを求めてみましょう



『過去問解法手順 05』 梁の応力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！
- 3) 計算対象を【選択】（計算対象とならなかった力は応力算定時には完全無視すること！）
- 4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力（通常は反力だね）を求める 図は 1) に戻るよ！
- 5) せん断力は軸に対して鉛直な全ての力が対象、軸方向力は軸に平行な力の全て、曲げモーメントは作用線が交差していない全ての力

解答： $M_C = 2 \text{ kNm}$

『解法 06』 ラーメンの応力【問題集 P300：□問題 01（一部）、P302：□問題 04、P303：□問題 06】『教科書 P35：□問題 2、P36：□問題 3/□問題 4、P37：□問題 5』

図のような外力を受ける静定ラーメンにおいて、C 点の曲げモーメントを求めよ。

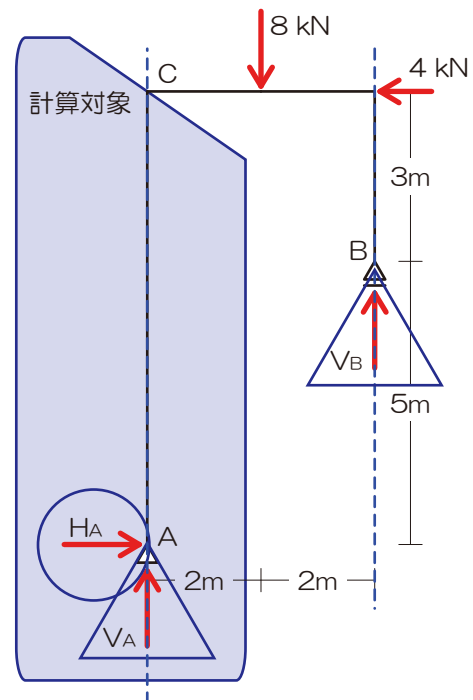
『過去問解法手順 06』 ラーメンの応力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！
- 3) 計算対象を【選択】（計算対象とならなかった力は応力算定時には完全無視すること！）
⇒ 今回は左側を選択してみます
- 4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力（通常は反力だね）を求める 図は 1) に戻るよ！
C 点に曲げモーメントの影響をおよぼす反力は H_A のみですね（ V_A は距離が 0 でモーメントも 0）
 H_A を求める（横方向の力のつり合いに着目）
$$\sum X = H_A - 4 = 0$$
$$H_A = 4 [\text{kN}]$$
- 5) 曲げモーメントは作用線が交差していない全ての力

$$M_C = -H_A \times 8 + V_A \times 0$$

$$M_C = -4 \times 8$$

$$M_C = 32 [\text{kNm}]$$



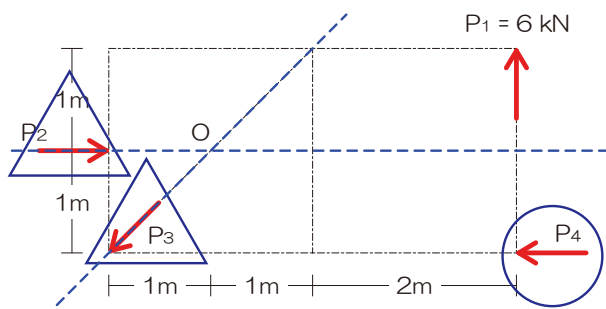
解答： $M_C = 32 \text{ kNm}$



【要点チェック】

『解法 03』 未知力算定（力のつり合い）

図のような4つの力 $P_1 \sim P_4$ がつり合っているとき、 P_4 の値を求めよ。【H20 改】



『過去問解法手順 03』 未知力算定（力のつり合い）

- 1) 求めたい未知力（ターゲット）を○チェック
- 2) ターゲット以外の未知力を△チェック
- 3) ターゲット以外の未知力の作用線を図示
- 4) 上記作用線が交差するなら⇒交点のモーメントに着目（ $M_O = 0$ ）、平行なら⇒直行する軸のつり合いに着目（ $\sum Y = 0$ もしくは $\sum X = 0$ ）

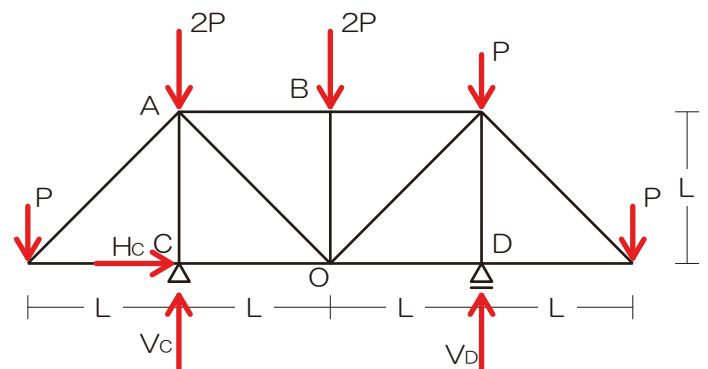
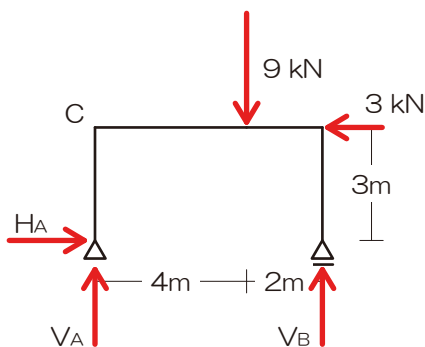
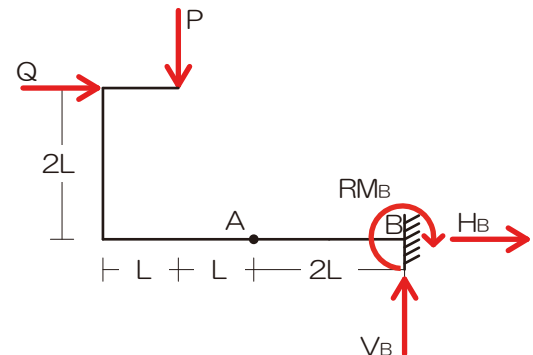
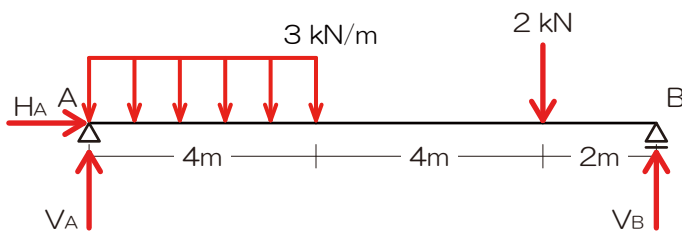
ターゲット以外の未知2力の交点Oに着目

$$M_O = +P_4 \times 1 - 6 \times 3 = 0$$

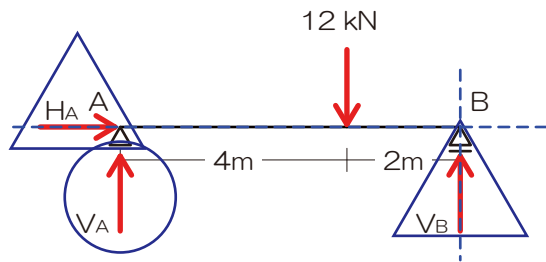
$$P_4 = 18 \text{ [kN]}$$

解答： $P_4 = 18 \text{ kN}$

★Q 06★ 各支点の反力を図示してみましょう



★Q 07-01★ 梁の支点反力を求めてみましょう（単純梁）



『過去問解法手順 04』 支点の反力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 求めたい未知力（ターゲット）を○チェック
- 3) ターゲット以外の未知力を△チェック
- 4) ターゲット以外の未知力の作用線を図示
- 5) 上記作用線が交差するなら⇒交点のモーメントに着目（ $M_O = 0$ ）、交差しないなら⇒直行する軸のつり合いに着目（ $\sum Y = 0$ もしくは $\sum X = 0$ ）
- 6) 残りの反力はそれ以外のつり合い式を用いて求める

反力を図示し、ターゲットを V_A とする

H_A と V_B の交点である B 点のモーメントに着目

$$M_B = +V_A \times 6 - 12 \times 2 = 0$$

$$6V_A = 24$$

$$V_A = 4[kN]$$

縦方向の力のつり合いより

$$\sum Y = +V_A + V_B - 12 = 0$$

$$4 + V_B - 12 = 0$$

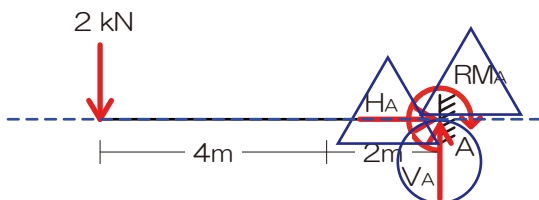
$$V_B = 8[kN]$$

横方向の力のつり合いより

$$\sum X = +H_A = 0[kN]$$

解答： $V_A = 4 \text{ kN}$ 、 $H_A = 0 \text{ kN}$ 、 $V_B = 8 \text{ kN}$

★Q 07-01★ 梁の支点反力を求めてみましょう（片持ち梁）



『過去問解法手順 04』 支点の反力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 求めたい未知力（ターゲット）を○チェック
- 3) ターゲット以外の未知力を△チェック
- 4) ターゲット以外の未知力の作用線を図示
- 5) 上記作用線が交差するなら⇒交点のモーメントに着目（ $M_O = 0$ ）、平行なら⇒直行する軸のつり合いに着目（ $\sum Y = 0$ もしくは $\sum X = 0$ ）
- 6) 残りの反力はそれ以外のつり合い式を用いて求める

反力を図示し、ターゲットを V_A とする

H_A と M_A は交点しないので…

$$\sum Y = +V_A - 2 = 0$$

$$V_A = 2[kN]$$

横方向の力のつり合いより

$$\sum X = H_A = 0$$

$$H_A = 0[kN]$$

A 点のモーメントに着目

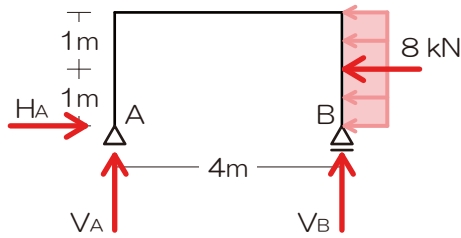
$$M_A = -2 \times 6 + RM_A = 0$$

$$RM_A = 12[kNm]$$

解答： $V_A = 2 \text{ kN}$ 、 $H_A = 0 \text{ kN}$ 、 $RM_A = 12 \text{ kNm}$



★Q 07-03★ 梁の支点反力を求めてみましょう（単純ラーメン）



『過去問解法手順 04』 支点の反力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 求めたい未知力（ターゲット）を○チェック
- 3) ターゲット以外の未知力を△チェック
- 4) ターゲット以外の未知力の作用線を図示
- 5) 上記作用線が交差するなら⇒交点のモーメント、交差しないなら⇒直行する軸のつり合い
- 6) 残りの反力はそれ以外のつり合い式を用いて求める

反力を図示し、ターゲットを V_A とする

H_A と V_B の交点である B 点のモーメントに着目

$$M_B = +V_A \times 4 - 8 \times 1 = 0$$

$$4V_A = 8$$

$$V_A = 2[kN]$$

縦方向の力のつり合いより

$$\sum Y = +V_A + V_B = 0$$

$$2 + V_B = 0$$

$$V_B = -2[kN]$$

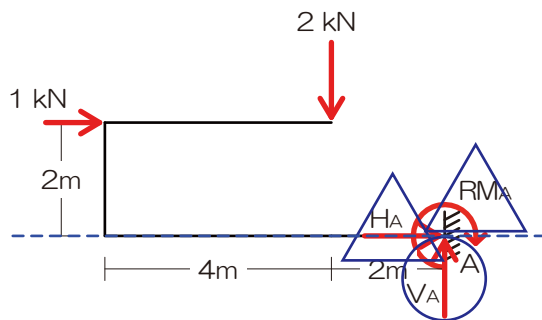
横方向の力のつり合いより

$$\sum X = +H_A - 8 = 0$$

$$H_A = 8[kN]$$

解答： $V_A = 2 \text{ kN}$ 、 $H_A = 8 \text{ kN}$ 、 $V_B = -2 \text{ kN}$

★Q 07-03★ 梁の支点反力を求めてみましょう（片持ちラーメン）



『過去問解法手順 04』 支点の反力

- 7) 生じる可能性のある反力を図示
- 8) 求めたい未知力（ターゲット）を○チェック
- 9) ターゲット以外の未知力を△チェック
- 10) ターゲット以外の未知力の作用線を図示
- 11) 上記作用線が交差するなら⇒交点のモーメント、交差しないなら⇒直行する軸のつり合い
- 12) 残りの反力はそれ以外のつり合い式を用いて求める

反力を図示し、ターゲットを V_A とする

H_A と M_A は交点しないので…

$$\sum Y = +V_A - 2 = 0$$

$$V_A = 2[kN]$$

横方向の力のつり合いより

$$\sum X = +1 + H_A = 0$$

$$H_A = -1[kN]$$

A 点のモーメントに着目

$$M_A = +1 \times 2 - 2 \times 2 + RM_A = 0$$

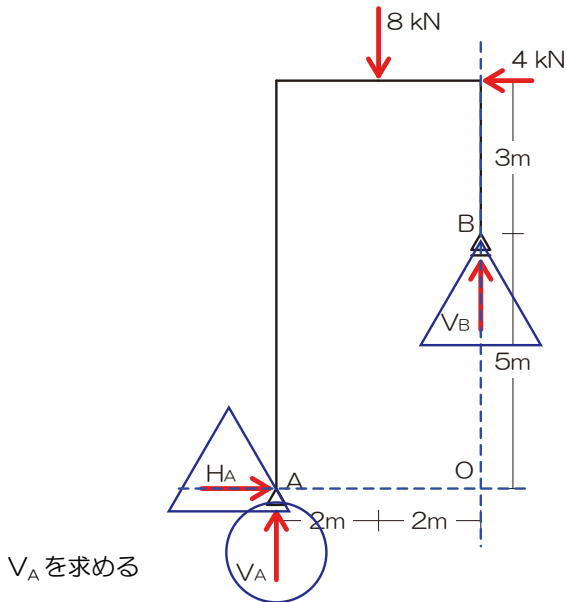
$$RM_A = 2[kNm]$$

解答： $V_A = 2 \text{ kN}$ 、 $H_A = -1 \text{ kN}$ 、 $RM_A = 2 \text{ kNm}$



『解法 04』 支点の反力

図のような外力を受ける静定ラーメンの支点 A・B に生じる鉛直反力を求めよ。ただし上方をプラスとする。【H18】



V_A を求める

ターゲット以外の未知 2 力の交点 O に着目

$$M_O = +V_A \times 4 - 8 \times 2 - 4 \times 8 = 0$$

$$4V_A - 48 = 0$$

$$V_A = 12[kN]$$

『過去問解法手順 04』 支点の反力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 求めたい未知力（ターゲット）を○チェック
- 3) ターゲット以外の未知力を△チェック
- 4) ターゲット以外の未知力の作用線を図示
- 5) 上記作用線が交差するなら⇒交点のモーメント、交差しないなら⇒直行する軸のつり合い
- 6) 残りの反力はそれ以外のつり合い式を用いて求める

V_B を求める

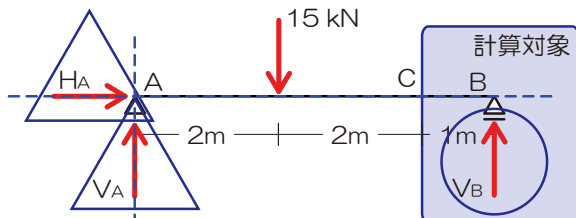
$$\sum Y = V_A + V_B - 8 = 0$$

$$12 + V_B - 8 = 0$$

$$V_B = -4[kN]$$

解答： $V_A = 12[kN]$ 、 $V_B = -4[kN]$

★Q 08-1★ C 点の各応力を求めてみましょう



C 点で【切断】⇒計算対象は右を【選択】

計算対象に未知力 V_B が入っているの…

V_B を求める（交点 A に着目）

$$M_A = +15 \times 2 - V_B \times 5 = 0$$

$$V_B = 6[kN]$$

C 点の軸方向力（材と並行な力）を求める

$$N_C = 0[kN]$$

『過去問解法手順 05』 梁の応力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！
- 3) 計算対象を【選択】（計算対象とならなかった力は応力算定時には完全無視すること！）
- 4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力（通常は反力だね）を求める 図は 1) に戻るよ！）
- 5) せん断力は軸に対して鉛直な全ての力が対象、軸方向力は軸に平行な力の全て、曲げモーメントは作用線が交差していない全ての力

C 点のせん断力（材と鉛直な力）を求める

$$Q_C = V_B$$

$$Q_C = 6[kN]$$

C 点の曲げモーメント（すべての力対象）を求める

$$M_C = -6 \times 1$$

（最後に絶対値標記）

$$M_C = 6[kNm]$$

解答： $N_C = 0[kN]$ 、 $Q_C = 9[kN]$ 、 $M_C = 6[kNm]$

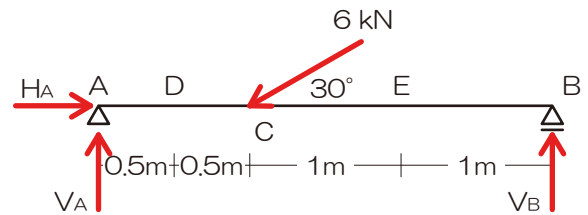


★Q 08-2★ 教科書 P23 の例題を「詳細に」解説してみます

説明しやすいように、AC 間に D 点、CB 間に E 点を追加させていただきます

まずは D 点の各応力を求めてみます

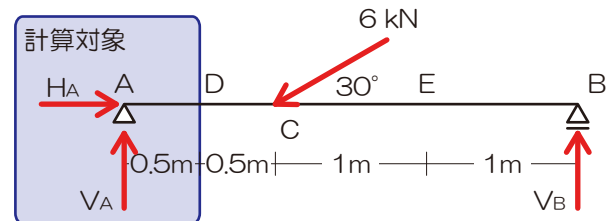
1) 生じる可能性のある反力を図示



2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！

3) 計算対象を【選択】(計算対象とならなかった力は応力算定時には完全無視すること！)

⇒ 計算対象は「左」とします



4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力(通常は反力だね)を求める 図は 1) に戻るよ！

V_A を求める ⇒ 交点 B のモーメントに着目

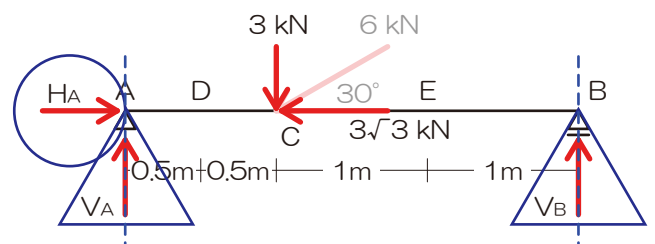
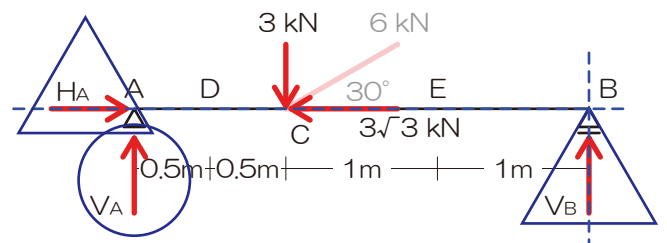
$$M_B = +V_A \times 3 - 3 \times 2 = 0$$

$$V_A = 2[kN]$$

H_A を求める ⇒ 直交する横方向の力のつり合い

$$\sum X = H_A - 3\sqrt{3} = 0$$

$$H_A = 3\sqrt{3}[kN]$$

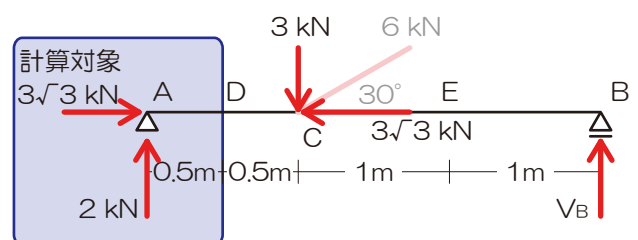


5) セン断力は軸に対して鉛直な全ての力が対象、軸方向力は軸に平行な力の全て、曲げモーメントはとにかく計算対象側全部の力

$$N_D = -3\sqrt{3}[kN]$$

$$Q_D = 2[kN]$$

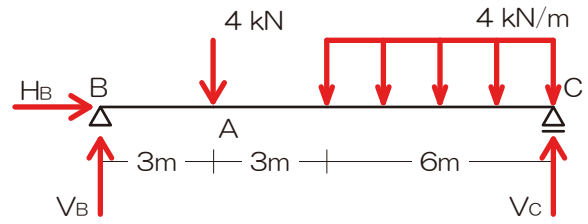
$$M_D = +2 \times 0.5 = 1[kNm]$$



図のような外力を受ける単純梁の A 点における曲げモーメントを求めよ。【H18】

『過去問解法手順 05』 梁の応力

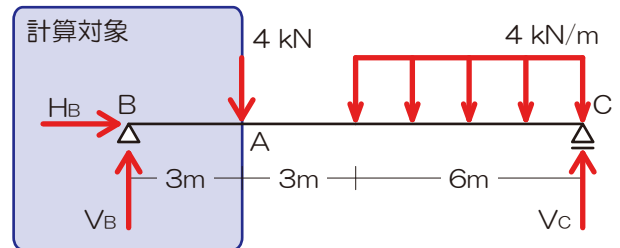
1) 生じる可能性のある反力を図示



2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！

3) 計算対象を【選択】（計算対象とならなかった力は
応力算定時には完全無視すること！）

⇒ 今回は左側を選択してみます



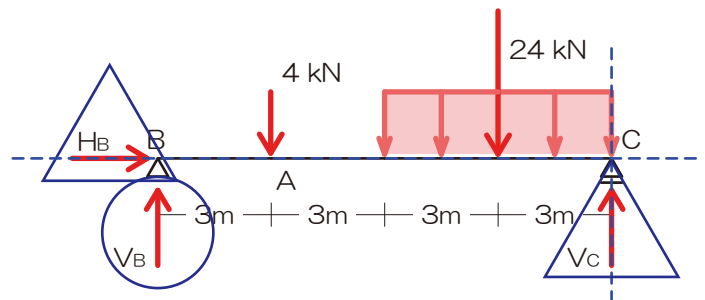
4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力（通常は反力だね）を求める 図は 1) に戻るよ！

V_A を求める（交点 C に着目）

$$M_C = +V_B \times 12 - 4 \times 9 - 24 \times 3 = 0$$

$$12V_B = -36 - 72$$

$$V_B = 9[kN]$$

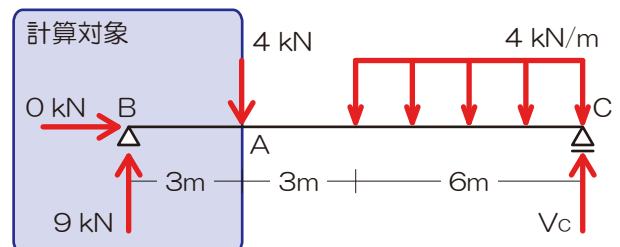


H_A を求める（横方向の力のつり合いに着目）

$$\sum X = H_A = 0[kN]$$

5) 曲げモーメントはとにかく計算対象側全部の力

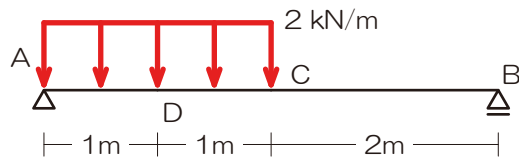
$$M_A = +9 \times 3 = 27[kNm]$$



解答： $M_A = 27 \text{ kNm}$



★Q 08-3★ D 点の各応力を求めてみましょう ⇒ 解答 P53

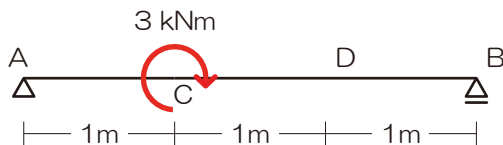


『過去問解法手順 05』梁の応力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！
- 3) 計算対象を【選択】（計算対象とならなかった力は応力算定時には完全無視すること！）
- 4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力（通常は反力だね）を求める 図は 1) に戻るよ！
- 5) セン断力は軸に対して鉛直な全ての力が対象、軸方向力は軸に平行な力の全て、曲げモーメントは作用線が交差していない全ての力

解答： $N_D = 0 \text{ kN}$ 、 $Q_D = 1 \text{ kN}$ 、 $M_D = 2 \text{ kNm}$

★Q 08-4★ D 点の各応力を求めてみましょう ⇒ 解答 P54

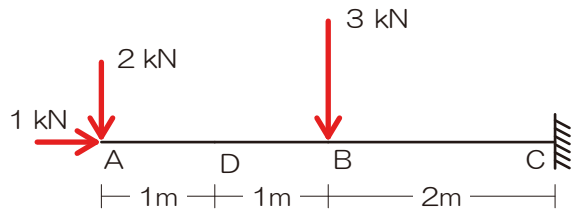


『過去問解法手順 05』梁の応力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！
- 3) 計算対象を【選択】（計算対象とならなかった力は応力算定時には完全無視すること！）
- 4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力（通常は反力だね）を求める 図は 1) に戻るよ！
- 5) セン断力は軸に対して鉛直な全ての力が対象、軸方向力は軸に平行な力の全て、曲げモーメントは作用線が交差していない全ての力

解答： $N_D = 0 \text{ kN}$ 、 $Q_D = 1 \text{ kN}$ 、 $M_D = 1 \text{ kNm}$

★Q 08-5★ D 点の各応力を求めてみましょう ⇒ 解答 P54

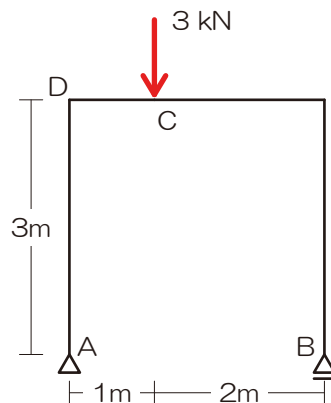


『過去問解法手順 05』梁の応力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！
- 3) 計算対象を【選択】（計算対象とならなかった力は応力算定時には完全無視すること！）
- 4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力（通常は反力だね）を求める 図は 1) に戻るよ！
- 5) せん断力は軸に対して鉛直な全ての力が対象、軸方向力は軸に平行な力の全て、曲げモーメントは作用線が交差していない全ての力

解答： $N_{CD} = -1 \text{ kN}$ 、 $Q_D = 2 \text{ kN}$ 、 $M_D = 2 \text{ kNm}$

★Q 08-6★ 柱頂部である D 点の各応力を求めてみましょう ⇒ 解答 P55



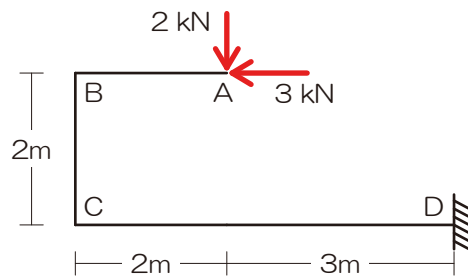
『過去問解法手順 05』梁の応力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！
- 3) 計算対象を【選択】（計算対象とならなかった力は応力算定時には完全無視すること！）
- 4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力（通常は反力だね）を求める 図は 1) に戻るよ！
- 5) せん断力は軸に対して鉛直な全ての力が対象、軸方向力は軸に平行な力の全て、曲げモーメントは作用線が交差していない全ての力

解答： $N_{CD} = -2 \text{ kN}$ 、 $Q_D = 0 \text{ kN}$ 、 $M_D = 0 \text{ kNm}$



★Q 08-7★ C 点の曲げモーメントを求めてみましょう ⇒ 解答 P55



『過去問解法手順 05』 梁の応力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！
- 3) 計算対象を【選択】（計算対象とならなかった力は応力算定時には完全無視すること！）
- 4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力（通常は反力だね）を求める 図は 1) に戻るよ！
- 5) せん断力は軸に対して鉛直な全ての力が対象、軸方向力は軸に平行な力の全て、曲げモーメントは作用線が交差していない全ての力

解答： $M_C = 2 \text{ kNm}$

『解法 06』 ラーメンの応力

図のような外力を受ける静定ラーメンにおいて、C 点の曲げモーメントを求めよ。

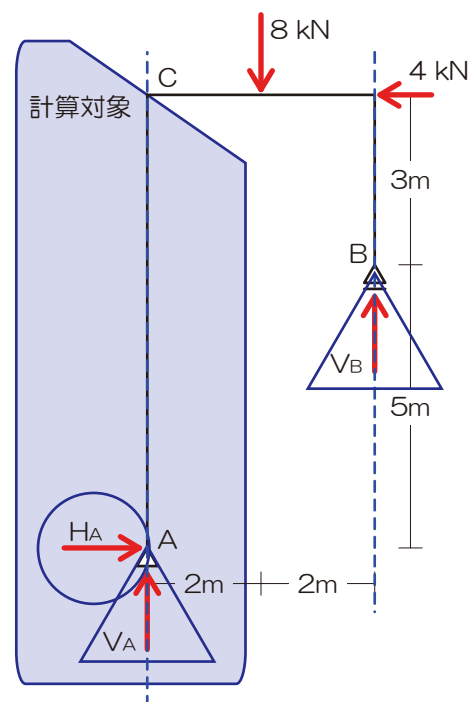
『過去問解法手順 06』 ラーメンの応力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！
- 3) 計算対象を【選択】（計算対象とならなかった力は応力算定時には完全無視すること！）
⇒ 今回は左側を選択してみます
- 4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力（通常は反力だね）を求める 図は 1) に戻るよ！
C 点に曲げモーメントの影響をおよぼす反力は H_A のみですね（ V_A は距離が 0 でモーメントも 0）
 H_A を求める（横方向の力のつり合いに着目）
$$\sum X = H_A - 4 = 0$$
$$H_A = 4 \text{ [kN]}$$
- 5) 曲げモーメントは作用線が交差していない全ての力

$$M_C = -H_A \times 8 + V_A \times 0$$

$$M_C = -4 \times 8$$

$$M_C = 32 \text{ [kNm]}$$



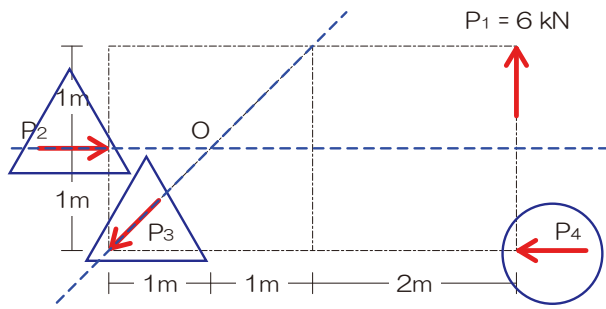
解答： $M_C = 32 \text{ kNm}$



【解答】

『解法 O3』 未知力算定（力のつり合い）

図のような4つの力 $P_1 \sim P_4$ がつり合っているとき、 P_4 の値を求めよ。【H20 改】



『過去問解法手順 O3』 未知力算定（力のつり合い）

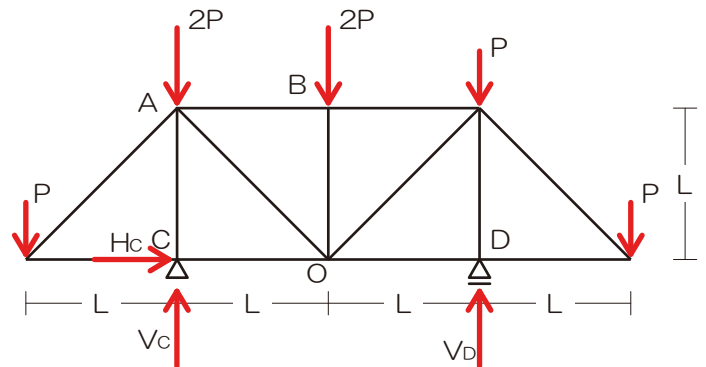
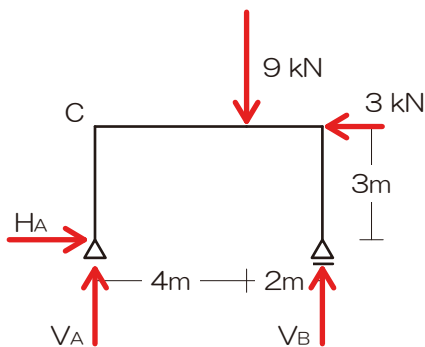
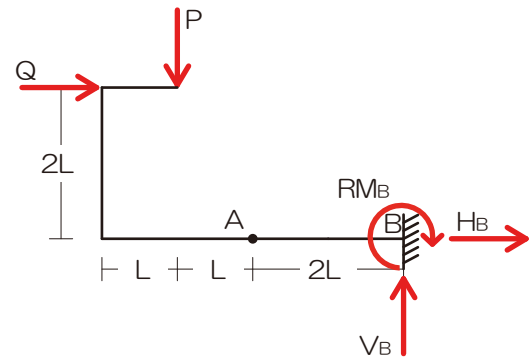
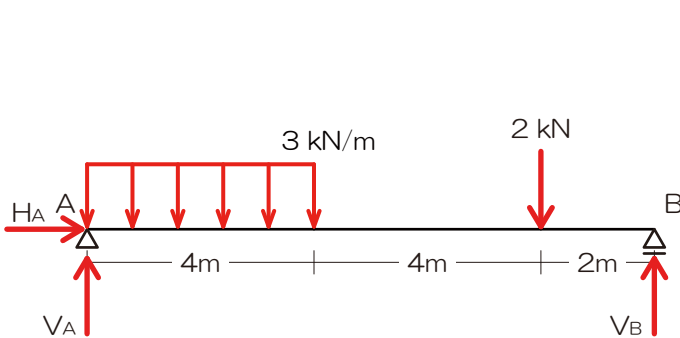
- 1) 求めたい未知力（ターゲット）を○チェック
- 2) ターゲット以外の未知力を△チェック
- 3) ターゲット以外の未知力の作用線を図示
- 4) 上記作用線が交差するなら⇒交点のモーメントに着目
 $(M_O = 0)$ 、平行なら⇒直行する軸のつり合いに着目
 $(\sum Y = 0 \text{ もしくは } \sum X = 0)$

ターゲット以外の未知2力の交点Oに着目

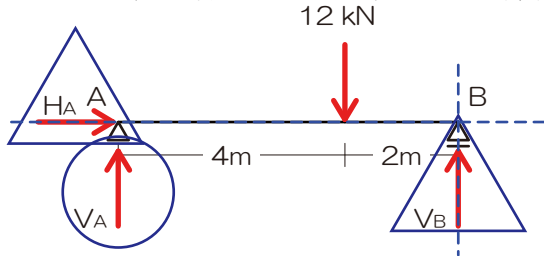
$$M_O = +P_4 \times 1 - 6 \times 3 = 0$$

$$P_4 = 18[kN]$$

★Q 06★ 各支点の反力を図示してみましょう



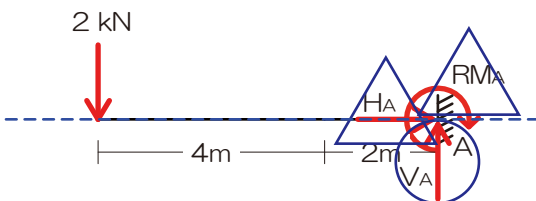
★Q 07-01★ 梁の支点反力を求めてみましょう（単純梁）



『過去問解法手順 04』 支点の反力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 求めたい未知力（ターゲット）を○チェック
- 3) ターゲット以外の未知力を△チェック
- 4) ターゲット以外の未知力の作用線を図示
- 5) 上記作用線が交差するなら⇒交点のモーメントに着目（ $M_o = 0$ ）、交差しないなら⇒直行する軸のつり合いに着目（ $\sum Y = 0$ もしくは $\sum X = 0$ ）
- 6) 残りの反力はそれ以外のつり合い式を用いて求める

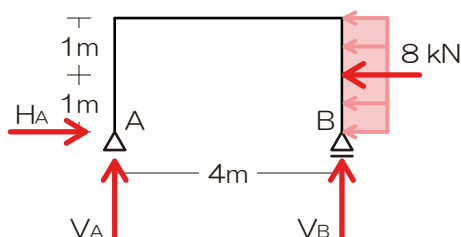
★Q 07-01★ 梁の支点反力を求めてみましょう（片持ち梁）



『過去問解法手順 04』 支点の反力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 求めたい未知力（ターゲット）を○チェック
- 3) ターゲット以外の未知力を△チェック
- 4) ターゲット以外の未知力の作用線を図示
- 5) 上記作用線が交差するなら⇒交点のモーメントに着目（ $M_o = 0$ ）、平行なら⇒直行する軸のつり合いに着目（ $\sum Y = 0$ もしくは $\sum X = 0$ ）
- 6) 残りの反力はそれ以外のつり合い式を用いて求める

★Q 07-03★ 梁の支点反力を求めてみましょう（単純ラーメン）



『過去問解法手順 04』 支点の反力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 求めたい未知力（ターゲット）を○チェック
- 3) ターゲット以外の未知力を△チェック
- 4) ターゲット以外の未知力の作用線を図示
- 5) 上記作用線が交差するなら⇒交点のモーメント、交差しないなら⇒直行する軸のつり合い
- 6) 残りの反力はそれ以外のつり合い式を用いて求める

反力を図示し、ターゲットを V_A とする

H_A と V_B の交点である B 点のモーメントに着目

$$M_B = +V_A \times 6 - 12 \times 2 = 0$$

$$6V_A = 24$$

$$V_A = 4[kN]$$

縦方向の力のつり合いより

$$\sum Y = +V_A + V_B - 12 = 0$$

$$4 + V_B - 12 = 0$$

$$V_B = 8[kN]$$

横方向の力のつり合いより

$$\sum X = +H_A = 0[kN]$$

反力を図示し、ターゲットを V_A とする

H_A と M_A は交点しないので…

$$\sum Y = +V_A - 2 = 0$$

$$V_A = 2[kN]$$

横方向の力のつり合いより

$$\sum X = H_A = 0$$

$$H_A = 0[kN]$$

A 点のモーメントに着目

$$M_A = -2 \times 6 + RM_A = 0$$

$$RM_A = 12[kNm]$$

反力を図示し、ターゲットを V_A とする

H_A と V_B の交点である B 点のモーメントに着目

$$M_B = +V_A \times 4 - 8 \times 1 = 0$$

$$4V_A = 8$$

$$V_A = 2[kN]$$

縦方向の力のつり合いより

$$\sum Y = +V_A + V_B = 0$$

$$2 + V_B = 0$$

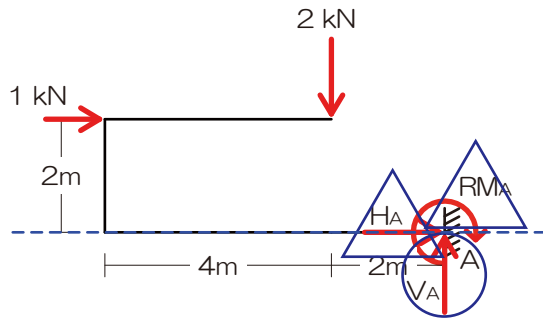
$$V_B = -2[kN]$$

横方向の力のつり合いより

$$\sum X = +H_A - 8 = 0$$

$$H_A = 8[kN]$$

★Q 07-03★ 梁の支点反力を求めてみましょう（片持ちラーメン）



『過去問解法手順 04』 支点の反力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 求めたい未知力（ターゲット）を○チェック
- 3) ターゲット以外の未知力を△チェック
- 4) ターゲット以外の未知力の作用線を図示
- 5) 上記作用線が交差するなら⇒交点のモーメント、交差しないなら⇒直行する軸のつり合い
- 6) 残りの反力はそれ以外のつり合い式を用いて求める

反力を図示し、ターゲットを V_A とする

H_A と M_A は交点しないので…

$$\sum Y = +V_A - 2 = 0$$

$$V_A = 2[kN]$$

横方向の力のつり合いより

$$\sum X = +1 + H_A = 0$$

$$H_A = -1[kN]$$

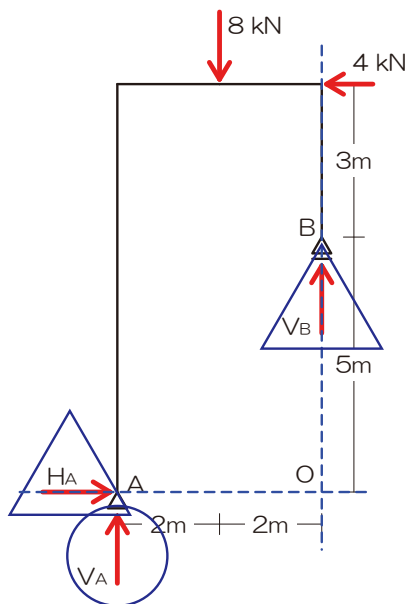
A 点のモーメントに着目

$$M_A = +1 \times 2 - 2 \times 2 + RM_A = 0$$

$$RM_A = 2[kNm]$$

『解法 04』 支点の反力

図のような外力を受ける静定ラーメンの支点 A・B に生じる鉛直反力を求めよ。ただし上方をプラスとする。【H18】



『過去問解法手順 04』 支点の反力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 求めたい未知力（ターゲット）を○チェック
- 3) ターゲット以外の未知力を△チェック
- 4) ターゲット以外の未知力の作用線を図示
- 5) 上記作用線が交差するなら⇒交点のモーメント、交差しないなら⇒直行する軸のつり合い
- 6) 残りの反力はそれ以外のつり合い式を用いて求める

V_A を求める

ターゲット以外の未知 2 力の交点 O に着目

$$M_O = +V_A \times 4 - 8 \times 2 - 4 \times 8 = 0$$

$$4V_A - 48 = 0$$

$$V_A = 12[kN]$$

V_B を求める

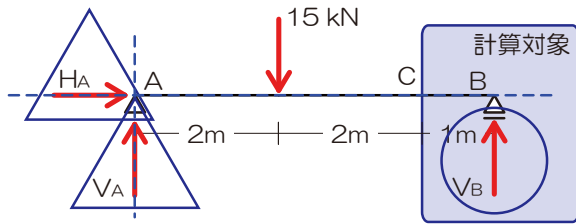
$$\sum Y = V_A + V_B - 8 = 0$$

$$12 + V_B - 8 = 0$$

$$V_B = -4[kN]$$



★Q 08-1★ C 点の各応力を求めてみましょう



『過去問解法手順 05』梁の応力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！
- 3) 計算対象を【選択】（計算対象とならなかった力は応力算定時には完全無視すること！）
- 4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力（通常は反力だね）を求める 図は 1) に戻るよ！
- 5) せん断力は軸に対して鉛直な全ての力が対象、軸方向力は軸に平行な力の全て、曲げモーメントは作用線が交差していない全ての力

★Q 08-2★ 教科書 P23 の例題を「詳細に」解説してみます

『過去問解法手順 05』梁の応力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！
- 3) 計算対象を【選択】（計算対象とならなかった力は応力算定時には完全無視すること！）

⇒ 計算対象は「左」とします

- 4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力（通常は反力だね）を求める 図は 1) に戻るよ！

V_A を求める ⇒ 交点 B のモーメントに着目

$$M_B = +V_A \times 3 - 3 \times 2 = 0$$

$$V_A = 2[kN]$$

H_A を求める ⇒ 直交する横方向の力のつり合い

$$\sum X = H_A - 3\sqrt{3} = 0$$

$$H_A = 3\sqrt{3}[kN]$$

- 5) せん断力は軸に対して鉛直な全ての力が対象、軸方向力は軸に平行な力の全て、曲げモーメントはとにかく計算対象側全部の力

$$N_D = -3\sqrt{3}[kN]$$

$$Q_D = 2[kN]$$

$$M_D = +2 \times 0.5 = 1[kNm]$$

C 点で【切断】⇒ 計算対象は右を【選択】

計算対象に未知力 V_B が入っているの…

V_B を求める（交点 A に着目）

$$M_A = +15 \times 2 - V_B \times 4 = 0$$

$$V_B = 6[kN]$$

C 点の軸方向力（材と並行な力）を求める

$$N_C = 0[kN]$$

C 点のせん断力（材と鉛直な力）を求める

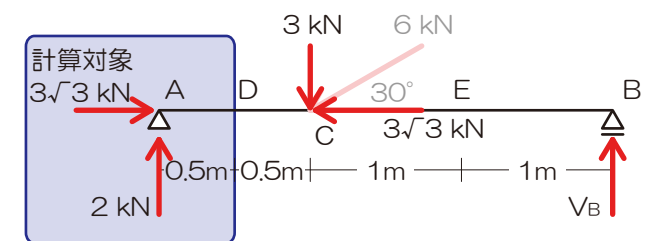
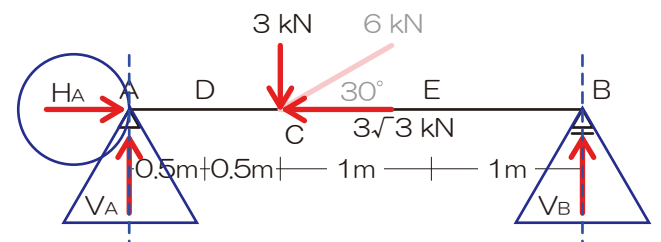
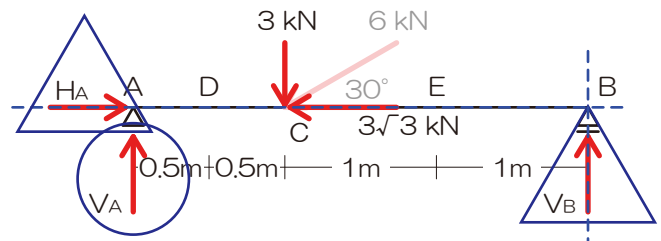
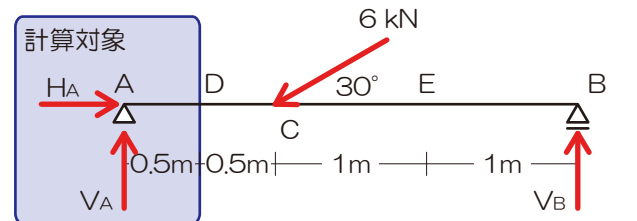
$$Q_C = V_B$$

$$Q_C = 6[kN]$$

C 点の曲げモーメント（すべての力対象）を求める

$$M_C = -6 \times 1$$

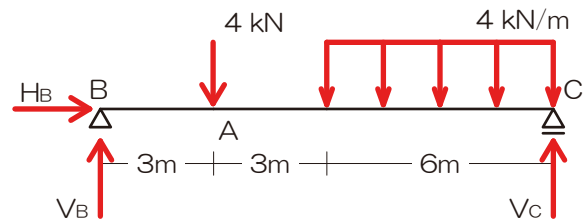
$$M_C = 6[kNm] \quad (\text{最後に絶対値標記})$$



図のような外力を受ける単純梁の A 点における曲げモーメントを求めよ。【H18】

『過去問解法手順 05』 梁の応力

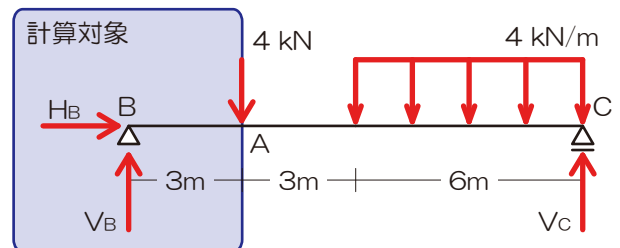
1) 生じる可能性のある反力を図示



2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！

3) 計算対象を【選択】(計算対象とならなかった力は
応力算定時には完全無視すること！)

⇒ 今回は左側を選択してみます



4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力(通常は反力だね)を求める 図は 1) に戻るよ！

V_A を求める (交点 C に着目)

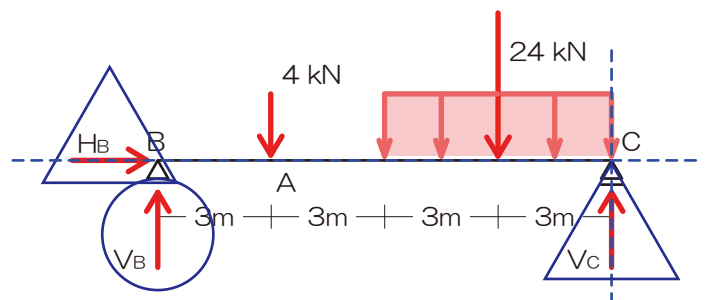
$$M_C = +V_B \times 12 - 4 \times 9 - 24 \times 3 = 0$$

$$12V_B = -36 - 72$$

$$V_B = 9[kN]$$

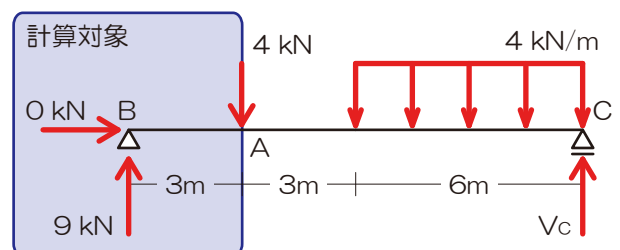
H_A を求める (横方向の力のつり合いに着目)

$$\sum X = H_A = 0[kN]$$



5) 曲げモーメントはとにかく計算対象側全部の力

$$M_A = +9 \times 3 = 27[kNm]$$

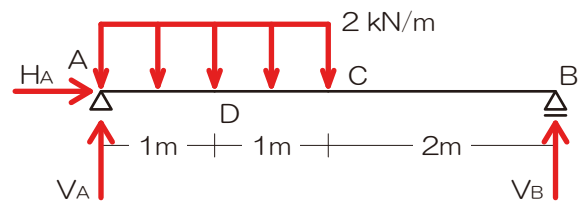


解答: $M_A = 27 \text{ kNm}$



★Q 08-3★ D 点の各応力を求めてみましょう

1) 生じる可能性のある反力を図示

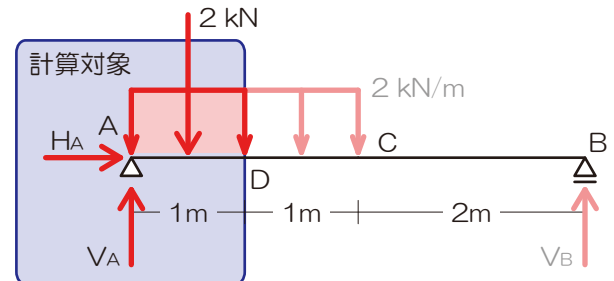


2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！

⇒ 分布荷重もしっかりと切断ね！

3) 計算対象を【選択】(計算対象とならなかった力は応力算定時には完全シカトすること！)

⇒ 計算対象は「左」とします



4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力(通常は反力だね)を求める 図は 1)に戻るよ！

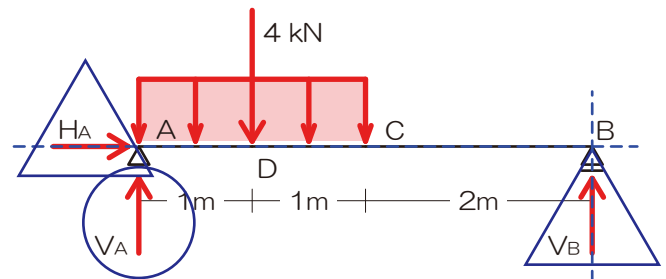
V_A を求める ⇒ 交点 B のモーメントに着目

$$M_B = +V_A \times 4 - 4 \times 3 = 0$$

$$V_A = 3[kN]$$

H_A を求める ⇒ 直交する横方向の力のつり合い

$$\sum X = H_A = 0[kN]$$

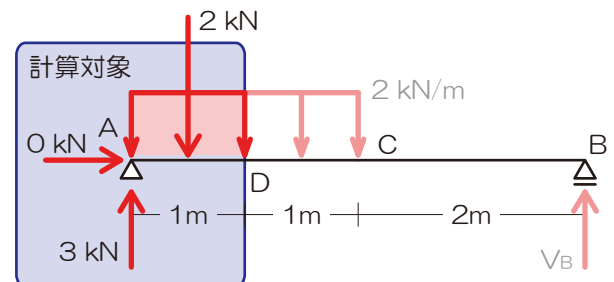


5) セン断力は軸に対して鉛直な全ての力が対象、軸方向力は軸に平行な力の全て、曲げモーメントはとにかく計算対象側全部の力

$$N_D = 0[kN]$$

$$Q_D = 3 - 2 = 1[kN]$$

$$M_D = +3 \times 1 - 2 \times 0.5 = 2[kNm]$$

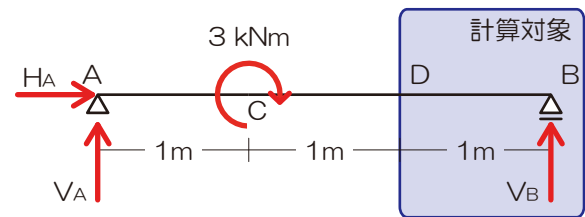


★基礎力養成 08-4★ 応力算定の基礎（モーメント荷重がかかる場合の各応力）

★Q 08-4★ D 点の各応力を求めてみましょう

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！
- 3) 計算対象を【選択】（計算対象とならなかった力は応力算定時には完全シカトすること！）

⇒ 計算対象は「右」とします

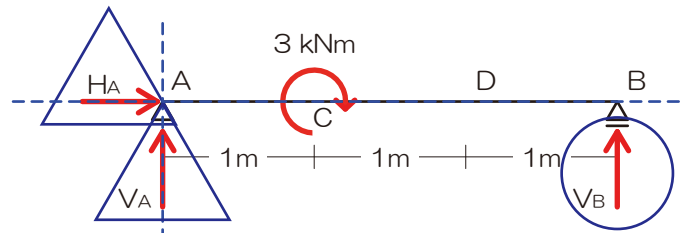


- 4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力（通常は反力だね）を求める 図は 1) に戻るよ！

V_B を求める ⇒ 交点 A のモーメントに着目

$$M_A = +3 - V_B \times 3 = 0$$

$$V_B = 1[kN]$$

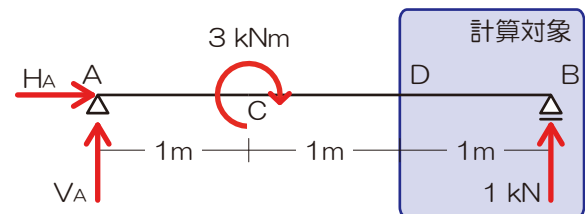


- 5) せん断力は軸に対して鉛直な全ての力が対象、軸方向力は軸に平行な力の全て、曲げモーメントはとにかく計算対象側全部の力

$$N_D = 0[kN]$$

$$Q_D = -1 = 1[kN]$$

$$M_D = -1 \times 1 = 1[kNm]$$



★基礎力養成 08-5★ 応力算定の基礎（片持梁における各応力）

★Q 08-5★ D 点の各応力を求めてみましょう

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！
- 3) 計算対象を【選択】（計算対象とならなかった力は応力算定時には完全シカトすること！）

⇒ 計算対象は「左」とします

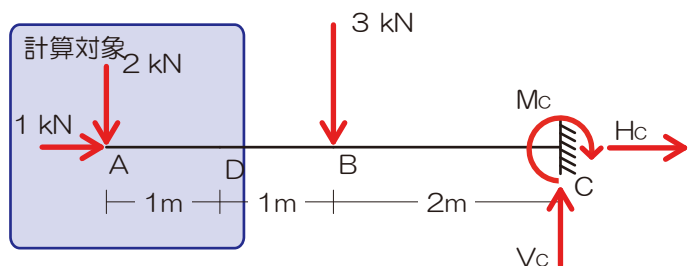
（片持系の場合は、支点側を選ばなければ反力算定無！）

- 4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力（通常は反力だね）を求める 図は 1) に戻るよ！
- 5) せん断力は軸に対して鉛直な全ての力が対象、軸方向力は軸に平行な力の全て、曲げモーメントはとにかく計算対象側全部の力

$$N_D = -1[kN]$$

$$Q_D = -2 = 2[kN]$$

$$M_D = -2 \times 1 = -2 = 2[kNm]$$



★基礎力養成 08-6★ 応力算定の基礎（単純梁系ラーメンにおける各応力）

★Q 08-6★ 柱頂部であるD点の各応力を求めてみましょう

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！
- 3) 計算対象を【選択】
⇒ 計算対象は「左」とします
- 4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力（通常は反力だね）を求める 図は 1) に戻るよ！

V_A を求める ⇒ 交点 B のモーメントに着目

$$M_B = +V_A \times 3 - 3 \times 2 = 0$$

$$V_A = 2[kN]$$

H_A を求める ⇒ 直交する横方向の力のつり合い

$$\sum X = H_A = 0[kN]$$

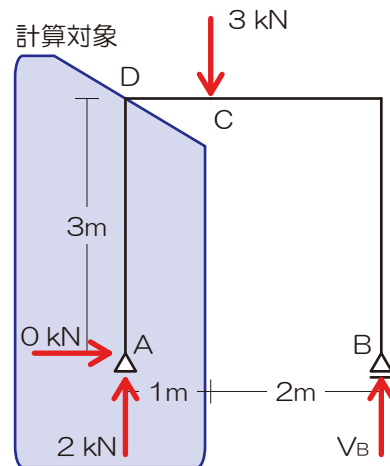
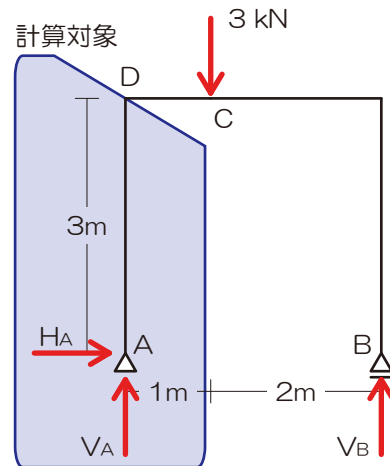
- 5) せん断力は軸に対して鉛直な全ての力が対象、軸方向力は軸に平行な力の全て、曲げモーメントはとにかく計算対象側全部の力

「柱頂部である D 点」と言っているの、軸方向力は鉛直方向の力、せん断力は水平方向の力ですね

$$N_D = -2[kN]$$

$$Q_D = 0[kN]$$

$$M_D = 0[kNm]$$



★基礎力養成 08-7★ 応力算定の基礎（片持梁系ラーメンにおける各応力）

★Q 08-7★ C 点の曲げモーメントを求めてみましょう

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！
- 3) 計算対象を【選択】
⇒ 計算対象は「左」とします
- 4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力（通常は反力だね）を求める 図は 1) に戻るよ！

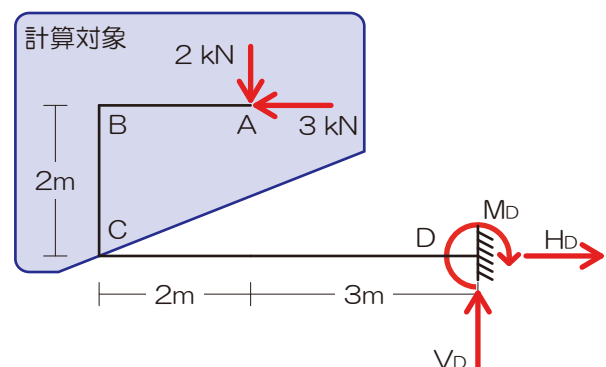
⇒ 片持ち系なので反力算定不要

- 5) せん断力は軸に対して鉛直な全ての力が対象、軸方向力は軸に平行な力の全て、曲げモーメントはとにかく計算対象側全部の力

$$M_C = +2 \times 2 - 3 \times 2$$

$$M_C = -2$$

$$M_C = 2[kNm]$$



図のような外力を受ける静定ラーメンにおいて、C 点の曲げモーメントを求めよ。

『過去問解法手順 06』 ラーメンの応力

- 1) 生じる可能性のある反力を図示
- 2) 応力を求めたい点で構造体を【切断】！
- 3) 計算対象を【選択】（計算対象とならなかった力は応力算定時には完全無視すること！）

⇒ 今回は左側を選択してみます

- 4) もし、未知力が入っていたら、ここでようやく未知力（通常は反力だね）を求める 図は 1) に戻るよ！

⇒ C 点に曲げモーメントの影響をおよぼす反力は

H_A のみですね（ V_A は距離が 0 でモーメントも 0）

H_A を求める（横方向の力のつり合いに着目）

$$\sum X = H_A - 4 = 0$$

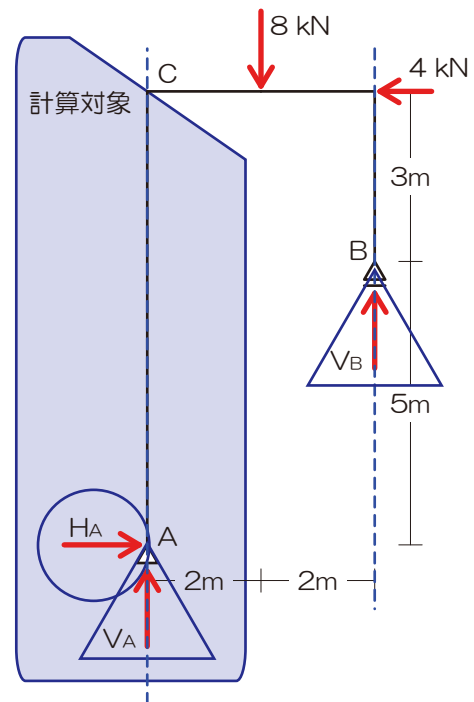
$$H_A = 4[kN]$$

- 5) 曲げモーメントは作用線が交差していない全ての力

$$M_C = -H_A \times 8 + V_A \times 0$$

$$M_C = -4 \times 8$$

$$M_C = 32[kNm]$$



解答： $M_C = 32 \text{ kNm}$

【memo】

